

ぴーぷる

財下水道新技術推進機構
新技術研究所研究第二部
副部長

よし かわ しず お
吉川 静雄 氏



—これまでの経歴は

昭和46年東京都下水道局に入局し、枝線管きよの設計を担当したのが私の最初の仕事です。以来、下水道局では、計画、設計、建設、維持管理業務と、技術職としての仕事全般に携わってきました。昨年3月末に35年間勤めた東京都を退職し、4月より本機構に勤務しております。

この間、日本下水道事業団へ2度出向し、東京都、八王子市、町田市、山梨県内の処理場、ポンプ所ならびに幹線管きよの施工管理に携わり、多様な下水道施設を経験させていただきました。平成15年度からは東京都下水道サービスの技術開発課長として新技術の開発に携わってまいりました。前職は、中部建設事務所工事第二課長として、再構築工事や大規模雨水貯留管（シールド工事）や処理場の建設などを担当しました。

本機構での担当業務は—

地方公共団体からの委託業務や共同研究のうち、主に水理実験に関わる業務を担当しています。管きよの大深度化による高落差流入や、大規模貯留管などの設計が増加し、マンホール蓋の飛散や下水の溢水など安全上の問題が指摘されていますが、机上計算では解明できない水理現象を模型実験により解明し、安全で維持管理しやすい施設の提案を行わせていただいております。

—本機構の印象は

明るく、活力のある職場です。少数精鋭、職員がスピードと機動力をもって、業務に取り組んでいます。そして、トップに立つ人たちが職員一人ひとりに気を配り、組織の和を大切にしているの

が印象的です。派遣元との父兄会や職員家族会の催しが行われ、歓送会や送別会は全員参加で、職員一人ひとりを温かく迎え、また温かく送り出しています。機構は内外ともに人との出会いが多いところだと思います。いつまでも人との出会いを大切にしていきたいと思います。

—これまでの思い出に残っている業務は

昭和59年に、はじめて維持管理の第一線の職場（出張所）に就き、故障処理（下水管のつまり、道路陥没、臭気他）対応や管路内清掃作業、改良・補修工事のための管路内調査、夜間立会いなどを担当したことです。当時は昼間の故障は直営で処理することが多く、下水管の中にほとんど毎日ように入っておりました。そこで2年間、下水管路内の構造や維持管理の実態を隅々まで知るとともに、住民への対応の仕方などを肌で覚えました。そして、その6年後に維持管理の仕事に戻った時に、局内で初めての「下水道管路施設維持管理マニュアル」の作成に取り組みました。当時の現場経験や保存していた帳票類を多く取り入れさせていただき、約1年かけて完成させました。この年、東京都の普及率は95%に達し、建設から維持管理の時代へ突き進んでおりました。

—今後の抱負を聞かせてください

これまでの経験を活かして、自治体の皆様に安全で維持管理しやすい下水道施設の提案や新技術の提供が出来るように、調査研究に取り組んでいきたいと思っています。